

2. 柏野学区の概要

(1) 位置・現況

柏野学区は、京都市の北西部に位置し、北区の学区の中で、最も面積が小さく、住宅を中心とするコンパクトな地域であるとともに、西陣織の生産地であることから、西陣織を中心とした繊維工業が盛んであった地域でもあります。

学区内には、豊臣秀吉の築造による御土居の史跡や連棟の京町家が残る路地があるなど京都の歴史や町並みを感じられるとともに、西陣の出織の音やお千度さん、両側町のコミュニティが今もなお残るなど、昔ながらの生活が色濃く残っています。

近年では、西陣織の衰退や急速な高齢化の進展、建築や開発等により風情ある町並みが失われつつあるなどの課題はあるものの、柏野自治連合福祉協議会のもと、町内会や各種団体が連携しながら、地域が一体となって地域活動に取り組んでいます。



【柏野学区の現況】（画像©2017google）

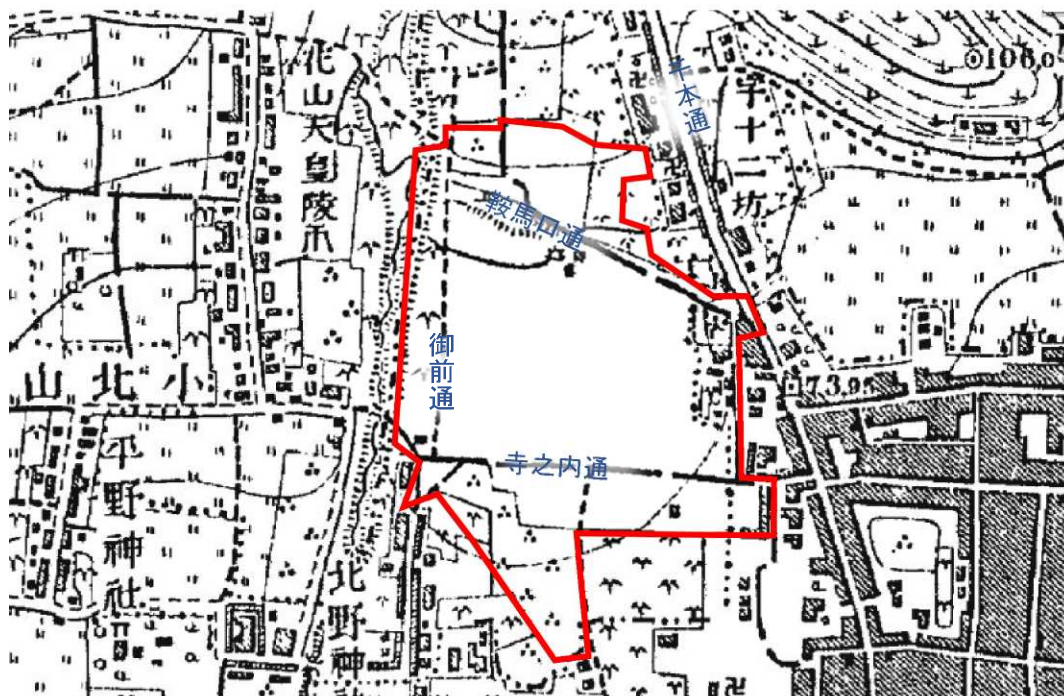
《柏野学区の基礎データ》

① 道の総延長	6, 579m	
② 細街路の延長 (幅員 4.0m未満の道)	5, 092m (学区内の道の 77%)	
③ 空き家の軒数	116 軒	
④ 人口、世帯数	平成 22 年 : 3, 347 人	1, 498 世帯
	平成 27 年 : 3, 201 人 (△146 人)	1, 493 世帯 (△5 世帯)
⑤ 65 歳以上人口、高齢化率	平成 22 年 : 1, 157 人	35.8%
	平成 27 年 : 1, 145 人 (△12 人)	37.0% (1.2%)

※①②京都市調べ、③平成 26 年度京都市調査、④⑤平成 22・27 年度国勢調査

(2) まちの成り立ち

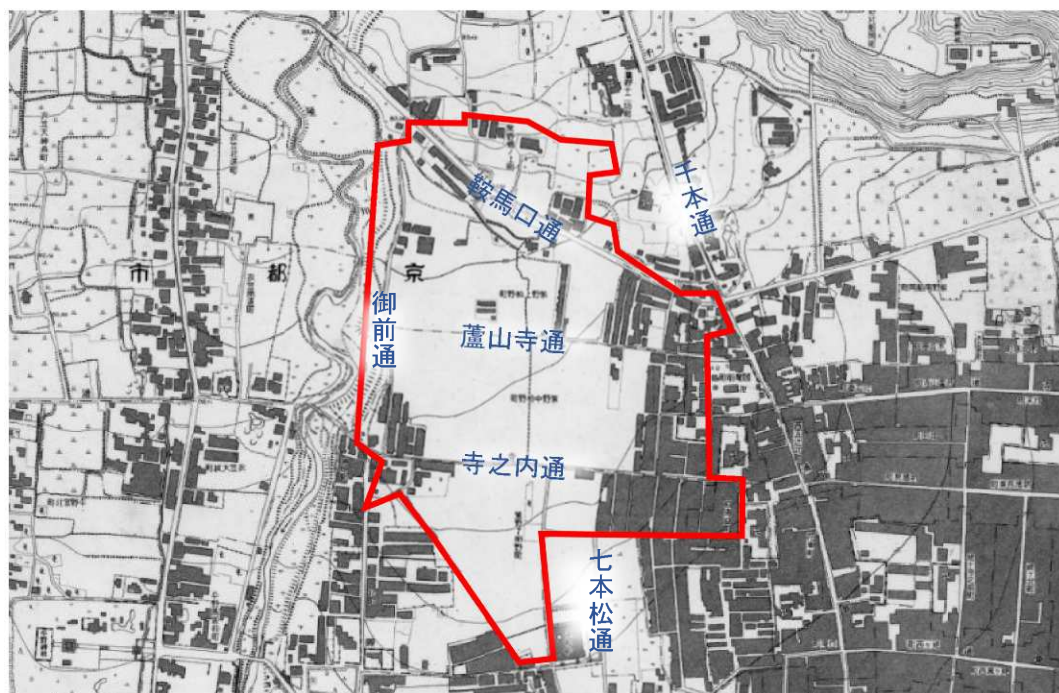
柏野学区は、かつては愛宕郡大宮村の南西に位置し、その名は「紫野なるかへの森」と呼ばれるなど、明治期には京の七野の一つに数えられていました。そのため、学区のほとんどが野原であり、まちの骨格となる道路網は千本通のみとなっています。



【明治 25 年頃の柏野学区】（「仮製地形図」国土地理院）

京都市に編入された大正期には、人家はまばらであり、ほとんどが田畑や空地であったとともに、水車や牧場もあるなど、のどかな風景が広がっていました。

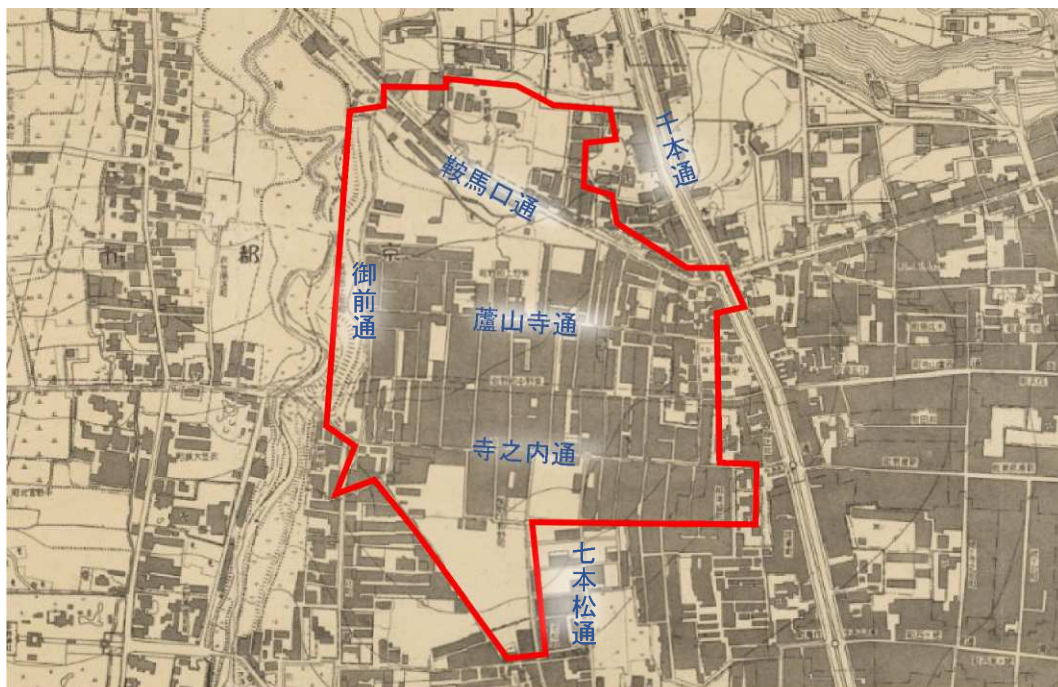
また、この頃から、千本通に加え、鞍馬口通、寺之内通、蘆山寺通、御前通など現在の道路網が徐々に形成されていることが読み取れます。



【大正 11 年頃の柏野学区】（「京都市都市計画基本図」京都大学文学研究科所蔵）

大正期から昭和初期にかけて、人口増加に伴い、住宅建設が盛んに行われ、路地や通りの両側に連棟長屋などの人家が立ち並び、現在の柏野のまちが形成されていきました。

また、昭和 14 年には第二待鳳校（現紫野校）から第四待鳳校が独立し、同年 16 年には「柏野国民学校」と改称され、現在の柏野小学校が誕生し、現在においても地域活動の拠点となっています。



【昭和 10 年頃の柏野学区】（「京都市都市計画基本図」京都府立総合資料館所蔵）



【昭和 26 年頃の柏野学区】（「京都市明細図」京都府立総合資料館所蔵）

(3) まちの魅力

①町並み

- ・柏野学区は、京町家が並ぶ風情ある町並みやお地蔵さん、出織（でばた）の機音が聞こえてくるなど西陣や京都らしい雰囲気の色濃く残されているとともに、京町家やまちの雰囲気を魅力に感じ、移り住んでくる若者も少なくありません。
- ・また、豊臣秀吉の築造による御土居の史跡があるなど歴史を感じることもできます。



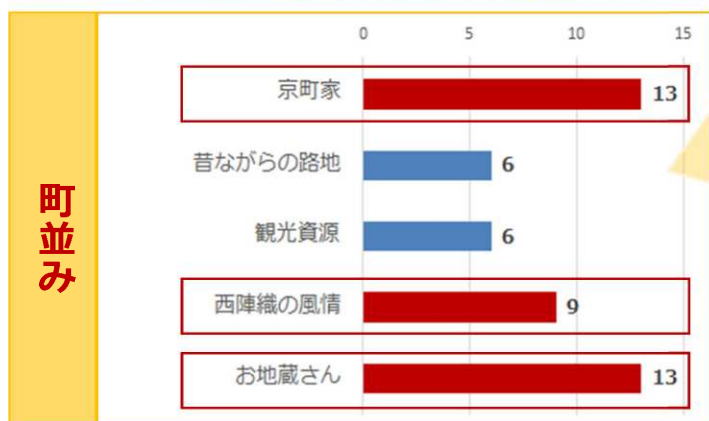
風情ある町並み



お地蔵さん



御土居跡



○「京町家」、「お地蔵さん」の回答が最も多く、次いで多かったのは「西陣織の風情」でした。

○その他に、「西陣織の音がまちの魅力となっている」、「映画だけでなく、テレビのロケーションにもなっている」という意見がありました。

②暮らし

- ・柏野学区は、学校や病院などの公共機関、商店街が近く、周辺に千本通・西大路通・北大路通といった幹線道路があるため、市バスなどの公共交通機関へもアクセスしやすく、生活の利便性が比較的高い地域となっています。
- ・また、学区内には狭い路地が多く車が通れないため、安心して子どもを遊ばせられるといった面もあります。



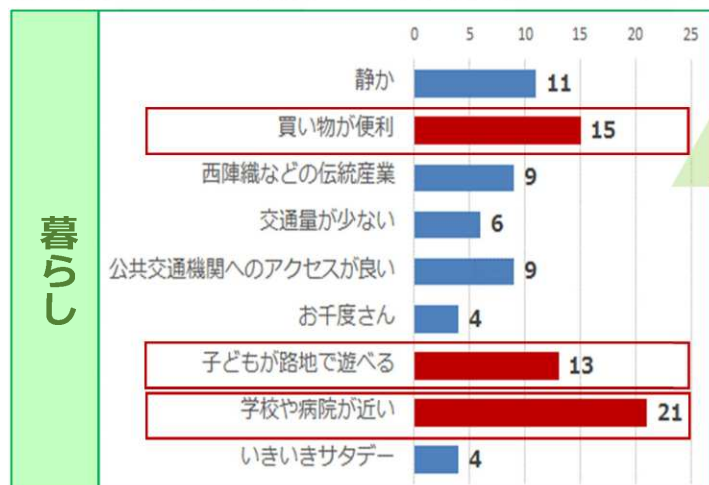
幹線道路



商店街



路地で子どもが遊べる

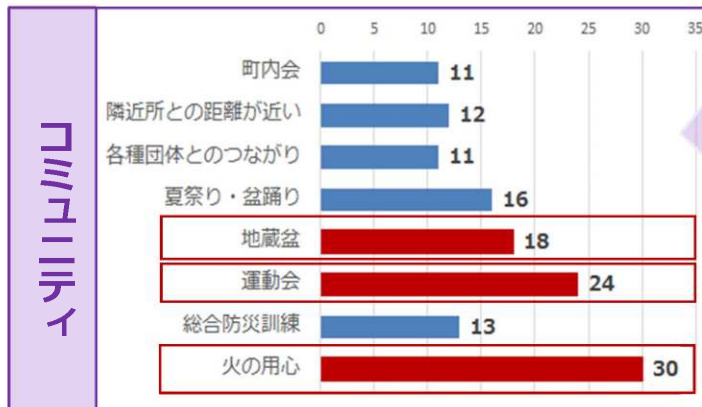


○「学校や病院が近い」の回答が最も多く、次いで多かったのは「買い物が便利」、「子どもが路地で遊べる」でした。

○その他に、「お千度さんを町内でやっている」という意見がありました。

③コミュニティ

- ・柏野学区は、町内会を中心に両側町などの昔ながらの地域付き合いや地蔵盆や運動会などの地域行事等を通じて、住民同士が交流を図るなど、しっかりとした地域コミュニティが形成されています。



○「火の用心」の回答が最も多く、次いで多かったのは「運動会」、「地蔵盆」でした。

○その他に、「福祉サロンが交流の場になっている」という意見がありました。

(4) 防災上の現状・課題

『みち』

- ・ 柏野学区では、東西・南北方向に防災上重要な軸となる道が少なく、災害時には、火災の延焼拡大、緊急車両の通行や救助・消火活動に支障が出るおそれがあります。
- ・ 延長の長い4 m未満の路地が多く、通過交通がないため子どもを安心して遊ばせることができる反面、地震時にブロック塀や建物の倒壊等により、道が塞がれて避難ができなくなるおそれがあります。
- ・ 幅が狭い道に電柱が多く、植木鉢が置かれていたり、路上駐車がされています。また、隅切りがないために道と道の交差部分が狭く、車の通行・右左折に支障があることや道に凸凹がみられ十分に維持管理されていないなど、日常生活においても通行の不便性や危険性があります。
- ・ 一方で、風情ある良好な京町家が建ち並ぶ路地は柏野学区のまちの魅力の一つとなっています。



『いえ』

- ・ 古い木造家屋が密集し、空地が少なく、地震時に火災が延焼するおそれがあります。また、建築年の古い建物が多いと、大地震が発生した場合に約半数の建物が倒壊するおそれがあり、自身の身に危険を及ぼすだけでなく、道が塞がれ避難できなくなるおそれがあります。
- ・ 建物の前に燃えやすいものが置かれていたり、空き家にゴミ等が放棄されているなど、火災の発生や延焼のおそれがあります。
- ・ 高齢化の進展や若い世代の転出等により空き家が学区内に広く分布し、一部には適正に管理されていないものもあることから、防災だけでなく、防犯や生活環境・景観など様々な課題につながっています。
- ・ 空き家のゲストハウス等への活用も進んでいますが、地域とのつながりが希薄であり、災害時に連絡が取れないなどの問題も指摘されています。
- ・ 京町家が数多く残る路地やお地蔵さん、西陣織の風情などは、柏野学区の魅力の一つであり、若い世代の転入の受け皿や観光資源にもなっていますが、京町家の解体や現代様式への建替えが進み、柏野の魅力が失われつつあります。



『まち』

- ・ 柏野学区には、公園が2箇所しかなく、防災上有効な空地も少ないことから、地震時に火災が延焼するおそれや災害時の避難や救助活動に支障をきたすおそれがあります。
- ・ 幅員の狭い路地に狭小な宅地が密集するようなエリアがあり、「みち」や「いえ」の個々の取組では、防災上の課題を抜本的に解決できないことが懸念されます。
- ・ 昔ながらの西陣の雰囲気や両側町のコミュニティが残っている一方で、高齢化の進展や町内会活動の担い手不足により、昔ながらのコミュニティの維持が困難になり、災害時における避難や救助活動等に支障をおよぼすことが懸念されます。
- ・ 役員の引継ぎや地域課題に取り組む体制が十分でないなど、継続して学区全体でまちづくりに取り組む体制に課題があります。



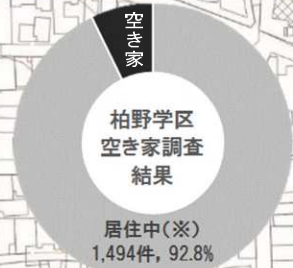
柏野学区のまちの魅力・課題 現況図

まちの魅力・課題に対する防災まちづくりの取組の方向性

- ①袋路の2方向避難やブロック塀の改善など、個々にできる対策はすぐにでも取り組む
- ②東西・南北方向に防災の軸となる道が必要
- ③昔ながらのコミュニティがしっかり残っており、それをまちづくりに活かすことが重要

柏野学区の魅力に関する意見

- 「みち」
- ・昔の名残りを残す道がある
 - ・車が通れないことで、子供を安心して遊ばせられる
- 「いえ」
- ・昔ながらの京町家が数多く残る
 - ・町家に住みたい若者が引っ越してくる
- 「まち」
- ・京町家が立ち並ぶ雰囲気の良い路地が残っている
 - ・機織の音など、昔ながらの西陣の雰囲気がある
 - ・両側町が多く、昔からのコミュニティが残っている



空き家数：116戸(7.2%)
うち管理不全空き家：
37戸(31.9%)
(平成26年度 京都市空き家調査より)

※平成27年度 国勢調査より

・地権者や地域の方の協力を得て、道路拡幅整備を実施(市助成制度の活用)



・雰囲気の良い町並みが残っている路地

・昔の名残りを残す道であり大切にしたい

・特に狭い区間であり、広げられれば効果が大きい

・幅員が狭く、電柱が多いため緊急車両の通行が困難
・狭い割に交通量が多く、危険
・隅切りがないため車が曲がれない
・凸凹があり車椅子での通行が困難
・防災面だけでなく生活面でも重要な路線であり、緊急車両が通れるだけの幅員の確保が必要

・映画のロケにも使われ、観光客も訪れる雰囲気の良い路地
・外国人投資家による町並みの保全と活用が行われている

・地形的な段差があるため袋路になっている

・鞍馬口通と寺之内通を南北につなぐ広い道がない

・千本通からの入口部を広げられたい

・道幅が狭く、狭い敷地が多いエリアでは、個々の対策による改善が困難であり、路地や敷地の集約化など面的対策の検討が必要

学区全体に共通する防災上の課題に関する意見 (地図上に表記したもの以外)

「みち」

- ・幅員の広い道が少ない、幅員4m未満の道が多い、延長の長い路地が多い
- ・緊急車両が通れる道が少ない
- ・狭い道では、建物が倒壊すると道が塞がれて避難できなくなる
- ・古いブロック塀などは地震時に倒壊して道を塞ぐおそれがある
- ・袋路では、入口の建物が倒壊すると避難できなくなる
- ・路地上に物(植木、自転車、駐車車両等)が置かれており通行に支障がある

「いえ」

- ・古い木造家屋が多く、地震時に倒壊して道を塞ぐ、火災発生のおそれがある
- ・空き家が多く、老朽化が進み、放置されて危険な空き家もある

「まち」

- ・防災上有効な空地が少ない(公園は2箇所のみ)
- ・高齢者が多く、一人暮らしの高齢者も増えている
- ・学生マンションとのコミュニケーションが取れていない
- ・学区境界部での課題は、住民からお願いすることは難しい

凡 例

- 幅員4.0m以上
- 幅員2.7m以上4.0m未満
- 幅員1.8m以上2.7m未満
- 幅員1.8m未満
- 袋路(突き当たりが建物)
- 袋路(突き当たりが塀・柵等)
- 袋路(突き当たりが扉)
- 避難所
- 地域の集合場所
- 消火栓
- 防火水槽
- 公共・公益施設
- 公園
- 寺社
- 河川
- 学区界

0 50 100 200m